



川口 尚也 さん (26)

まくひとしごと 枕崎 × 人 × 仕事 No.15

みさき薬局 / 住吉町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。今日は、市内に勤務する薬剤師取材しました。



現在、本市では25名ほどの薬剤師が勤務しています。今回はそのうちの1人、みさき薬局に勤務する川口尚也さん取材しました。本市出身の川口さんは、幼い頃病院に通院していた際、当時の薬剤師の働く姿にあこがれて薬剤師を目指すようになりまし

た。市外の中学校、高校を卒業後、宮崎県にある九州保健福祉大学の薬学部に進学しました。大学では薬の効能・効果、患者さんとの接し方、公衆衛生に関する事などを学び、大学5年生の時には現在勤務するみさき薬局で2カ月半実習を行いました。その際、指導してくれた先生の熱意や事務員の皆さんの優しさに触れ、ここで一緒に働きたいと思ったと話します。

新人薬剤師として日々勉強中の川口さんですが、「1人でも多くの市民の方に気軽に相談に来てもらえる、皆さんの役に立つ薬局、そういう薬局になるように役立ちたい」と今後の目標を話します。



今月の担当は 中崎隊員です!



地域おこし協力隊 活動レポート

協力隊が行く!

こんにちは、地域おこし協力隊の中崎千晶です。

畑の一部をカモミール畑にしてみました! いい匂いに誘われて、いろいろな虫たちもやってきました。

コロナ禍で感じる

枕崎に来て1年目に感じたことは、イベントの多さでした。以前は鹿児島市内に住んでおり、鹿児島はイベント多いのかな?と思うくらいでしたが、枕崎に住んでみると毎月いろいろなイベントが開催されて、我が子と共に地域や学校のイベントに参加と忙しい日々でした。コロナ以降、軒並みイベントが中止になり、かつおまつりやきばらん海などのイベントの大切さが改めて分かりました。

地域との多様な関わり

先日、九州移住ドラフト会議2021に参加された選手の方々に話を聞くことができました。九州移住ドラフト会議は、プロ野球のドラフト会議に見立てて、球団役として移住者を受け入れた「地域」、選手役として「移住希望者」が参加する「人と地域」の出会いの機会を創出する移住企画で

す。2016年に鹿児島で始まり、過去4回の開催で約30名が移住したほか、二拠点生活、地域PRや課題解決の協働など、地域と人との多様なつながりが生まれています。

枕崎からは「地域商社まぐらぎ」がエントリし、3人の選手との交渉権を獲得しましたが、そのうちお二人とつながりを持つことができました。2人とも関東在住の大学生で、1人はご当地カレーで地域の魅力を発信されている方、もう1人は学校の講義で地方創生について興味を持たれている女性でした。若者らしく、枕崎でやってみたいこと、枕崎の資源を利用してこんなことができるのでは!と提案をしていただきました。少しだけ枕崎の先輩である私は、この提案にはどんな課題があるか、枕崎でできそうなこと・難しそうなのを自問自答しながら聞いていました。2人ともポジティブでハキハキとしていたので、ぜひ彼らが都会とのパイプ役になって、私たちも枕崎側としていろいろなモノ、コトを提案できたらいいなと考えています。今後またこの動きを報告したいと思います。

篠塚隊員同様、私もインスタグラムで活動状況などを発信していますので、ご覧ください。



NAKAZAKI.CHIAKI

第67回県美展～南薩地区展

鹿児島市の黎明館、鹿児島市立美術館で開催された「第67回県美展」の枕崎在住作家を含む南薩地区関係作家の入賞入選作品(絵画、彫刻、工芸、写真など)を展示します。

- 会期 6月6日(日)～20日(日)
- 会場 南浜館(第1展示場)
- 観覧料 無料

枕崎せんじ会小品展

枕崎の絵画グループ「枕崎せんじ会」の油彩画、水彩画などの作品を展示します。

- 会期 6月6日(日)～20日(日)
- 会場 南浜館(市民ギャラリー)
- 観覧料 無料

南浜館の臨時休館について

企画展準備のため、下記の期間は南浜館が臨時休館となります。

- 期間 7月6日(火)～10日(土)

特別企画展「親愛なる友フィンセント 動くゴッホ展」

印象派を代表する画家フィンセント・ファン・ゴッホにスポットをあて、コンピューターグラフィックス技術を使った作品を集めた体験型展覧会「デジタルファインアート展」として「動くゴッホ展」を開催します。

- 会期 7月11日(日)～9月5日(日) 会期中無休
- 会場 南浜館
- 観覧料 一般1,000円、高校・大学生800円、中学生以下 無料(前売券:一般800円、高校・大学生600円、団体割引等有り)
- チケットぴあ Pコード:685-700
- 販売所 南浜館、枕崎市役所売店



スポーツ・文化 イベント情報

南浜館
開 9:00～17:00
※入館は16:30まで
休 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日
問 スポーツ・文化振興課
TEL72-9998



市長

コラム

vol.27



SDGsのこれから

2年前の6月のコラムテーマはSDGsでした。SDGsとは、2030年に向けて世界が目指す17のゴールと169のターゲットからなる「持続可能な開発目標」のことです。2年前は馴染みのなかったこのSDGsですが、今では市内の小中学生もSDGsのことを知っていますし、今年に入って地元新聞社もSDGs宣言をするなど、多くの人が浸透しつつあります。

本市でも、2年前の枕崎高校文化祭での青年会議所とのコラボレーション、本市と青年会議所の間ではSDGs連携協定の締結、そして昨年策定した第二期地方創生総合戦略は全ての目標をSDGsのゴールと紐付けて取り組んでいます。SDGsの17のゴールには「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「海の豊かさを守ろう」など、本市にとっても重要な目標が並んでいます。

SDGsの17のゴールを達成することが世界にとっても枕崎にとっても有意義といえます。ただ、その169のターゲットを一つ一つ見ていくと、今のコロナ禍の中で足りないものも見えてきます。ターゲットの中には「伝染病の流行や感染症の根絶」はあっても「世界的な流行(パンデミック)の予防」はない(2018 沖大幹)。すでに世の中に存在するエイズ、結核、マラリアなどの根絶に向けたターゲットは示されていますが、(今回のコロナのような)これから発生するであろう感染症への予防は示されていません。また、これも今回のコロナ禍の下で議論となった「知的好奇心の充足、スポーツ、美、芸術、歌や踊り、エンターテインメント、笑いといった物質的でないが、より良い未来社会に不可欠である要素」がSDGsの視野に入っていない(2018 沖大幹)という指摘もあります。このように、決してSDGsは完璧なものではありませんが、この17のゴールは私たちが未来を描く上では非常に有用なツールですし、このように深掘りすることで不足するものをイメージすることもやはり有用なことに思います。せっかくここまで浸透し始めたSDGs、これからさらに学んで、より良い未来に向けて生かしていければと思うところで。